

整形外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 「第3世代 TSA ペグ型グレンオイドコンポーネントの X 線学的検討」

[研究機関] 北海道大学病院 整形外科

[研究責任者] 三浪 明男（北海道大学病院 整形外科・教授）

[研究の目的]

変形性肩関節症や関節リウマチに対する全人工肩関節置換術（以下、TSA）では、たいていの場合痛みを和らげることができ患者さんには満足していただいておりますが、グレンオイドコンポーネント（肩甲骨側の人工物）の弛みは重要な合併症の一つです。ペグ型コンポーネント（肩甲骨側の人工物の一種）はキール型（別の形の人工物）に比べ弛みにくいと報告されています。当科では患者さんにより満足していただけるためにペグ型コンポーネントを使って TSA を行ってきました。本研究の目的は、レントゲン写真を使ってこれらの TSA のペグ型コンポーネントの周囲の弛みなどを評価することです。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2001年7月から2008年5月までの間に、北海道大学病院整形外科で同一術者により TSA を施行された患者さんのうち、①グレンオイドコンポーネントとしてペグ型を用いた患者さんおよび、②手術後が12ヶ月以上経過している患者さん。

●利用するカルテ情報

年齢・性別、術前の可動域と痛みの具合、最終経過観察時のレントゲン写真および同時期の可動域・痛みの具合です。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目
北海道大学病院整形外科 担当医師 門間太輔
電話 011-706-5936